

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、  
まことに、ありがとうございます。  
月間通信 11 月号をお送り致しました。  
何卒、よろしくお願い致します。



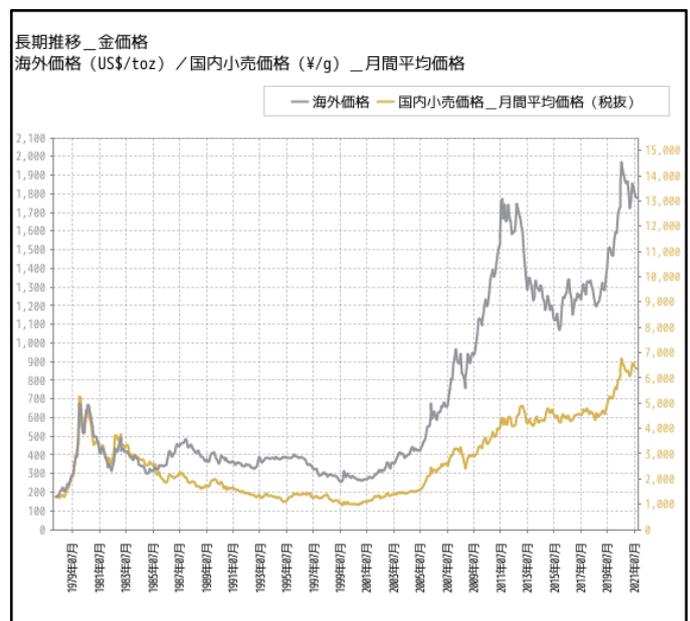
御存知 WHO のアイコンです。

一応 Covid-19 は、此処が主導的立場になっています。日本国内に於いて主導している尾身茂氏は、この機関の出身です。どこに向かってどのように指導しているのかは不明です。幸せとを感じる形が違えば、その方向が違って当然です。ただ、最近スペインの保健省が Covid-19 は自然界に存在しないと文書で回答したという NEWS は本当でしょうか。そして兵器として特許まであるというのですから驚きです。それにしても、このアイコンは、私には理解に苦しむデザインです。

理解に苦しむことは他にも最近いっぱいあります。インフレ問題は日本だけ蚊帳の外のような気がします。もちろん輸入に頼る製品は上がっていますが、インフレとは根本的に違います。このインフレも人造のような気がしています。余程の転換期が迫っているのか、経済が停滞するような事ばかりが次々と発生していて、見聞きしていると、とても興味深い出来事です。

何から書こうか書きたい事が山ほどあり変な感じです。『人々は必ず正しい方向に進む』との感覚は未だに色褪せていません。ひとつの方向は金本位制の復活です。1971 年 8 月 15 日に突如として、Gold とドル紙幣との兌換が解消しました。この時 Gold1 オンスを

35 ドル紙幣で買ったということです。ちなみに 1 オンスは約 28.35 グラムです。もうひとつ余分な事ですが、今現在は 1,800 ドルです。そうすると、Gold 価格は 1800 ÷ 35 倍に跳ね上がった事になります。逆にその割合でドルの価値は下がった事になります。



割り算を電卓でしてみますと、51.4 と出ます。50 年間で Gold 価格はドルベースで 51.4 倍に上がり、ドルの価値は 51.4 分の 1 に減少したことになります。Gold 1 オンスは、Gold 1 オンスで、それ以上でもそれ以下でもなく、そのまま動かぬ価値です。余談ですが、弊社の中澤は左目の眼底に血液が溜まったとして、先月手術をしましたが、その網膜が腫れていて医師から『この網膜の腫れは引かないかも知れない』と言われていたのが術後 4 週間の昨日の検査では、腫れが引いて来ているとの事でした。彼女曰く『金は薬膳素材』だそうです。それで金箔を含んだクリームを左に多く塗り続けた成果もある、と言っていました。

さて、10 年ほど前に『实体经济は 5%程度で、後は金融経済だ』と何かで読んだので、実際に調べて計算してみました。どのように計算したか正確には覚えて

いませんが、その時の計算結果は 4.8%でした。すごい話したと思いました。この世にバブルという言葉がありますが、それならばこの分がバブルと言えなくもありません。何故なら、例えこの紙幣が裏付け価値がないとはいえ、現時点では 1800 ドル分の紙幣で 1 オンスの Gold に換わることは事実ですが、明日は分からないという事です。この間の各国の経済状態が債務過剰状態だという事は、紙に刷りさえすれば紙幣に早変わりする仕組みにあったと言えます。その紙幣が行く着くところに行き着き、これ以上身動きが取れなくなっているのです。これを 2025 年に戻そうというのです。つまり、金本位制の復活です。Covid-19 を恐れるあまり暮らしが健全化して来ているように、金本位制に戻して経済の健全化を図ろうというものかも知れません。

とは云うものの、金融経済が実体経済を牽引してきた面も事実です。ですので金本位制に戻れば今までの 50 年間の様な経済の発展はしなくなりそうな気がします。地に足付けた健全な暮らしと経済は、走ることは出来ても空を飛ぶようなスピードで動くことは出来なからです。

でも、それだけで現在各国の債務過剰状態が解消する訳では無いので、日本の中央銀行『日銀』のように、国の財政の借入れ先の各国中央銀行を国家機関の一部に吸収してしまう作戦が検討されているように思います。

戦後日銀の後ろ盾に米国がなるプランをマッカーサーが実行しようとした時、誰だったか忘れてしまいました。『こんな敗戦国の中央銀行の後ろ盾になってもらうなど、恐れ多くてとてもできません。イザというときに御迷惑が掛かってしまいますので、私ども国内で責任を持つ仕組みで行きます』と具申して、日本国政府が株式の 55%を財務大臣名で保有することになり、言ってみれば政府の出先機関になっています。こんな英雄の名前を思い出せないなんて私もどうかしてしまっていますが、マッカーサーも軍人だったのでしょうか。

ともかくも幸運としか言いようがありません。亭主が子育てのために嫁さんから借金をしているような状態で、

その嫁さんがお金を刷ることが出来るなら、その家庭の財政破綻は無くなるというもので、早晚各国そのような対処法になるのではないかと想像しています。自国で貨幣が回るようであれば、それで言うことは無く、ただ貿易決済に自国通貨同士では評価基準がないので上手く行きません。そこで評価基準としての Gold の存在が浮彫になり、Gold の裏付けを以って流通する国際通貨が必要になります。

でも、いつか映画の話しで書いたようにその Gold はそんなにあります。一方米ドルを印刷している FRB は民間資本の私企業です。FRB が米国政府機関に併合もしくは移設すると、この資本は面白くありません。根源的な仕組みを変える時一番配慮すべきは現体制の中で最も利権を持つ者の立場であることは古今東西問わず鉄則です。もっとも武力革命でも起こせれば別ですが、そんな時代でも無いので、ではどうするかですが、ある時パッと閃きました。絶妙の知恵です。その通りなるかどうかは分かりませんので、此処に書くことは憚られますが、目ざとい方はここまで書けば、想像は付くと思います。

でも、何故理解に苦しむ事ばかり多重的に発生するのかを考えれば、その後の体制に移行しやすいように誰かが意図していると思えません。



これは私が小豆島で作りはじめたピザ窯の土台です。こんな事をして遊んでいます。

有限会社アルファー  
吉田清一郎